

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 北方 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

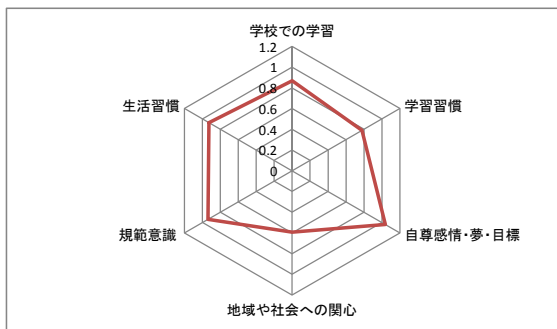
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・基本的な内容については、定着しつつある。 ・短い文章で答える形式の問題には、課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考える設問は、全国平均と同等の正答率だった。	
	努力が必要な問題	文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く問題は、正答率が低かった。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	・読むことの領域では全国平均にせまっている。 ・書くことの領域に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題		
	努力が必要な問題	目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える問題は、正答率が低かった。	
算数A	全体的な傾向や特徴など	・円周率を求める式として正しいものを選ぶ問題は全国平均を上回った。 1に当たる大きさを求める問題や、グラフから変化の特徴を読み取る問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	円周率を求める式として正しいものを選ぶ問題は全国平均を上回った。	
	努力が必要な問題	1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表す問題は、正答率が低かった。	
算数B	全体的な傾向や特徴など	示された数量を関連付け根拠を明確にして記述したり、条件に合う図形を見出したりするような、数学的な考え方を要する問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	色の規則性を解釈し、それを基に条件に合う色を判断する問題は、全国平均を上回った。	
	努力が必要な問題	合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見出す問題は、正答率が低かった。	
理科	全体的な傾向や特徴など	科学的な言葉や概念の理解や、結果を見通して実験を構想する力に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	雲の様子や川の水位の変化から、上流側の天気と下流側の水位の関係について問う問題は、全国平均にせまる正答率だった。	
	努力が必要な問題	回路を流れる電流の向きと大きさについて、実験結果から考え直した内容を選ぶ問題は、正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
○ ほとんどの児童が、家で学校の宿題をしているが、自分で計画を立てて勉強をすることや、1時間以上の学習時間の確保に課題がある。
○ 授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことには課題が見られる。
○ 地域行事への参加や、地域や社会で起こっている問題や出来事へ関心には、課題がある。
○ 自尊感情は、全国平均より高い。また、将来の夢や目標をもっているか、人の役に立つ人間になりたいか、という設問についても、全国平均を上回っている。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・学力向上のための特設時間の実施・・・朝自習、昼休み後、放課後の「ぐんぐんタイム」を全校一斉に実施。
- ・算数の各学年の重点項目については、少人数授業やTT授業を実施し、個々の児童のつまづきを把握し、きめ細やかな指導をする。
- ・毎時間、書く活動を意図的・計画的に取り入れ、思考力・表現力等の育成を図る。授業の終末には、振り返りの時間を確保する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・宿題のスタンダード化 ・学年で共通した宿題を出す。(国語・算数) ・自主学習ノートの活用 ・「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用
- ・冬休みの宿題にアシストシート、WEB問題を活用 ・全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者に通知。